様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　３ 年　６ 月 １８ 日現在

機関番号：１２６０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2018～2020
課題番号：１８Ｋ０１０５８

研究課題名（和文）近世東アジアにおける陶磁器流通・消費動態に関する考古学的研究

研究課題名（英文）Archaeological study on porcelain distribution and consumption dynamics in early modern East Asia

研究代表者
堀内　秀樹（HORIUCHI, Hideki）

東京大学・キャンパス計画室・准教授

研究者番号：３０１７３６２８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,300,000円

研究成果の概要（和文）：東アジア陶磁器貿易の実相について解明することを目的とする。日本ブロックでは、重要な消費地である江戸遺跡の出土集成を行い、器種、装飾、生産地、年代、出土地などのデータ化を行った上で日本国内の需要を解明した。東南アジアブロックでは、台湾南部の流通都市北港遺跡と原住民の拠点集落の淇武蘭遺跡出土資料について、同様の分析を加え、両者の違いを明らかにした。特に北港遺跡では悉皆的な分類と数量を調査を行い、提示した意義は大きい。
また、地域の違いを明らかにするために東南アジア地域の主体を占める福建広東産陶磁器について、生産および日本国内や流通ネットワークの状況から、多角的に明らかにできた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
東南アジアブロックと日本ブロックとの相違と東南アジアブロック域内流通ネットワークの一端が明らかになった点、これまでにはなかった一括資料の評価ベースになる陶磁器の悉皆的な分類と数量提示が行えた点はこれからの研究に大きく寄与すると考えている。

研究成果の概要（英文）：The object of the study is elucidation of the actual situation about ceramic trade in East Asia region. In Japan block, I conducted a survey of excavated materials from the Edo site, an important consumption area, the data such as type of equipment, decoration, place of production, age, land of origin, etc. was created, and clarified the demand in Japan. In Southeast Asia block, Similarly, survey of excavated materials from the Pak-kang Ruins, a distribution city in southern Taiwan, and the Wu Wu Lan Ruins, a base village of indigenous people, clarified the difference between the two. Especially at the Pak-kang Ruins, the significance of presenting the comprehensive classification and quantity surveyed is very important.
And, Fujian and Guangdong ceramics, which occupy most of the Southeast Asian region, It was clarified from various angles from the situation of production and the situation in Japan and the distribution network.

研究分野：考古学

キーワード：貿易陶磁器　江戸遺跡　北港遺跡　陶磁器流通　流通ネットワーク　福建・広東諸窯

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

近世東アジアにおける陶磁器貿易は、考古学的調査とその成果によって以下の 3 つの流通ブロックに分けられることを指摘した（平成 23～25 年度に交付科学研究費『都市江戸の貿易陶磁器需要と地域間貿易ネットワークに関する総合的研究』（基盤研究(C)課題番号 23520919）。

・**中国ブロック：**生産と消費が自国内で行われる地域で、国外に多くの陶磁器を輸出する。

・**東南アジアブロック：**地域内で磁器生産が行えない地域で、食膳具の中心に磁器を輸入に依存する。

・**日本ブロック：**17 世紀初めに磁器生産を開始し、磁器の自給自足が成立することで新たに形成される。日本ブロックは、科研成果の中で、将軍、大名の拠点として武士の消費活動が行われた日本最大マーケットである江戸の需要の解明を踏まえて、その成立と動態を明らかにした。

しかし、上記の中で日本ブロックを除くと現状では概略的であり、特に中国ブロックの生産と東南アジアブロックの消費の具体相の解明が不十分である点に学問的問題が所在している。一方で、広域流通は地域需要の総体とも換言でき、地域需要の状況とその変化を明らかにすることが必要であった。

２．研究の目的

本研究は、当該地域における陶磁器流通について、具体的な考古学資料を用いて、①新しいステージに入った国家間流通ネットワークの形成とその変化の実相と、②これまで未解明であった東南アジアにおける地域消費需要と流通ネットワークの形成プロセスを明らかにすることを目的とする。

また、本研究の最終的な目的は、3 つの流通ブロックの実相と影響解明である。本研究では、貿易によって流通する陶磁器総体を把握する意味で、東南アジア地域の消費地の実相解明を優先した。

３．研究の方法

研究目的で示したように、東アジア地域における陶磁器の物流状況を広域レベル（国家間）と地域レベルの両者から明らかにすることを研究視点としており、この両者は相互連動していることから同時に解明していくことが必須である。そこで、東アジア規模で展開された陶磁器貿易に対してこれまで遺跡や地域で個別に行ってきた基準を標準化し、流通から消費への解明を容易にする一方、台湾を中心とした東南アジア地域の調査を行い、未解明な地域の消費様相を明らかにする。調査は、地域・年代・階層などの情報を有する考古学的資料を対象にし、詳細なデータを呈示した上で貿易陶磁器需要の実態を明らかにする。

調査によって得られた需要の傾向を踏まえた上で、それに関連する経済的動態や文化的行為などについて考察を加える。

（1）江戸遺跡の調査

既報告の遺跡に対して、前出科研では 2009 年度までに調査報告書が刊行された遺跡のうち、江戸期に最終廃絶時期が想定される遺跡・遺構を対象に掲載されている全ての貿易陶磁器の集成を行った。継続して 2015 年度までに刊行した報告書に掲載された貿易陶磁器に対して、器種、推定生産地、装飾法、法量、銘款など陶磁器個々の情報の他に、出土遺跡や遺構の性格、廃絶要因、共伴している陶磁器の年代などについてもデータ化を行った。

協力者に分担していただき、集成し貿易陶磁器は、先の集成と合わせて 5,898 例であった。

（2）台湾の調査

雲林縣北港鎮（古笨港）および宜蘭縣淇武蘭遺跡を対象に、出土貿易陶磁器全てを対象に器種、推定生産地、装飾法、法量、銘款など陶磁器個々の情報をデータ化した。

①雲林縣北港鎮

台湾南部の雲林縣北港鎮は、17 世紀後半以降、朝天宮の門前町として、また、地域の流通拠点として機能した都市である。

②宜蘭縣淇武蘭遺跡

淇武蘭遺跡は、近世には原住民の居住区であり、北港を中心とした漢人の居住した遺跡との対比を行うことで、需要動態の違いが明確化し、地域内消費市場形成と文化的影響が解明可能である。

（3）関連研究

本研究と関連した研究として、以下の方々から成果をいただいた。

赤松和佳、大橋康二・扇浦正義、新垣力、髙島裕之、坂井隆、森達也、盧泰康、長佐古真也、湯沢丈　（敬称略、詳細は資料報告集照）

４．研究成果

最終年度は、予定していた中国福建省を中心とした生産地、および台湾の消費地調査が新型コロナウイルス感染症の影響で行うことができなかった。成果は、継続して行っていた江戸遺跡を中心とした日本ブロック、台湾を中心とした東南アジアブロックになった。

（1）江戸遺跡の調査

上記の方法で 2015 年までの報告書に掲載された貿易陶磁器の資料化を行い、①器種（表 1）、②胎質・装飾方法（表 3）、③推定生産地（表 4）、④推定生産年代（表 2）について分析を行い、背景について言及した。詳細は、資料集（2）を参考にされたい。

（2）北港（古笨港）遺跡の調査

台湾南部の雲林縣北港鎮は、天啓元（1621）年以降に鄭芝竜が城塞を構築すると同時に 3,000 人が入植した記録がある。17 世紀後半以降、次第に市街が形成され、康熙 22（1694）年、朝天宮が創建され、その門前町として、また、地域の流通拠点として機能、繁栄した都市である。

今回の調査資料は、朝天宮裏側の北港鎮第二公有零售市場の改建の際に確認されもので、地元の郷土歴史家によって工事の際に発生した土をふるって収集されたもので、陶磁器を中心とし、鉄製品、石製品、木製品などを含めた膨大な資料である。場所は門前町とした機能していた商業域、主に漢人の居住区であった。したがって、資料には漢人を中心とした生活財、あるいは商売道具などが含まれていることが想定される。

確認された資料は、17 世紀後半から現在までを含むが、日本統治時代以降の資料は極端に少ない。概数で、大型のコンテナ箱 100 箱、破片数 3 万点、重量 875kg であった。

①胎質（表 6）

確認された陶磁器の中で、磁器（2,866 個体、20,386 点）は、陶器（48 個体、4,089 点）、土器（87 個体、728 点）を合わせた全体の 82%を占めていた。こうした様相が 18 世紀を中心とした中部台湾の生活相の一般的な様相かは、今後の類例の増加を待って検証する必要がある一方、陶磁器以外の胎質の生活財のあり方も視野に入れる必要がある。

少なくとも古笨港出土資料群には、宜蘭県淇武蘭遺跡などから出土している当該期原住民が使用する土器類が確認されていないことから、完全に漢人文化圏の資料と理解できる。

②加飾法（表 6）

確認された磁器の加飾法は、青花、白磁、青磁、褐釉、瑠璃釉、緑釉、三彩、色絵の 8 種類であった。多かった順に青花（86%）、白磁（8%）、色絵（5%）、青磁（1%）、褐釉（1%未満）、瑠璃釉（1%未満）、緑釉（1%未満）、三彩（1%未満）であった。ここから看取される加飾法は、青花が圧倒的である。ただし、数量化できにくい属性として製品の質（製品階層）の問題がある。本資料群の主体を占める碗、皿類の多くは、釉剥ぎ、型成形を行っている量産器種であり、青花に描かれている文様も簡易なものが多い。

③器種組成（表 7）

確認された器種は、碗、皿、鉢、坏、合子、香炉、壺、水注、瓶、灯火具、筆立、散蓮華、蓋物の 13 器種であった。器種が判断できた 22,454 点中、碗が 16,389 点、皿が 4,512 点、坏が 1,227 点で上位の 3 器種で 98.5%を占め、磁器の用途として生活用具全体と言うより、食膳具にあったことが明確に看取された。こうした極端な傾向が、東南アジア、台湾あるいは北港の特徴として性格づけられるかは今後の課題であろう。

④生産地

景徳鎮と推定される製品は、59 推定個体、1,190 点で、磁器全体の 5%と少量であると言えるが、薄作りで精緻な文様が描かれ、景徳鎮と福建・広東磁器製品とでは、価格や製品階層の差異が想定される。

（4）調査と成果の発信

上記、3 年間の調査・研究の成果として、以下のことを行った。

①勉強会の開催

2018/1/14、2018/12/23、2019/7/7

②海外調査（含予備調査）

2014/8/6～10、2015/8/18～22、2016/8/31～9/10、2017/6/14～15、2017/8/26～9/3、
2018/6/17～18、2018/8/25～9/9、2019/5/20～21、2019/8/24～9/7

③報告書の作成

予定していた成果報告会は、新型コロナウイルス感染症の蔓延により中止し、江戸遺跡、台湾調査の成果と協力をいただいた研究者とともに 2021 年 3 月に東京大学埋蔵文化財調査室の調査・研究プロジェクトとして『18・19 世紀の福建・広東諸窯の貿易陶磁器　資料報告集を刊行した。

④資料集の作成調査と刊行

大貫浩子、武内啓、弦本美菜子、中野高久、藤掛泰尚、宮澤菜穂、湯沢丈　　（敬称略）

打ち合わせ：2017/4/5、2018/12/23

江戸遺跡の調査成果として、『近世都市江戸の貿易陶磁器 資料集（2）』を刊行した。

【参考文献】
近世貿易陶磁器調査・研究グループ　2013　『近世都市江戸の貿易陶磁器　調査・研究報告書』
近世貿易陶磁器調査・研究グループ　2013　『近世都市江戸の貿易陶磁器　資料集（1）』
近世貿易陶磁器調査・研究グループ　2021　『近世都市江戸の貿易陶磁器　資料集（2）』
東京大学埋蔵文化財調査室　2021　『18・19 世紀の福建・広東諸窯の貿易陶磁器　資料報告集』
堀内秀樹　2021　「江戸時代の貿易陶磁需要－江戸遺跡の状況を中心として－」『代表研究者　渡辺芳郎　2016～2020 年度科学研究費補助金基盤研究（B）研究成果報告　近世国家境界域「四つの口」における物質流通の比較考古学的研究』
盧泰康　印刷中　『北港百年藝鎮再造歴史現場－古笨港遺址出土文物整理研究、修護與專書出版計畫　期末報告』

表 1　器種組成（江戸遺跡）

	碗	皿	鉢	坏	瓶	急須	薬瓶	蓮華	灯明具	香炉	水注	壺	花入	水指	その他	合計
数量	1587	2625	327	620	133	7	47	60	8	41	11	139	20	1	66	5692

表 2　年代別器種組成（江戸遺跡）

	碗	皿	鉢	坏	瓶	急須	薬瓶	蓮華	灯明具	香炉	水注	壺	花入	水指	その他	合計
A期	62	177	42	3	20	0	0	0	0	19	2	15	16	1	12	369
M期	827	2060	198	318	23	0	0	0	0	7	2	16	2	1	12	3466
S期	519	128	37	271	6	7	47	56	5	4	2	7	1	0	4	1094
合計	1408	2365	277	592	49	7	47	56	5	30	6	38	19	2	28	4929

表 3　胎質・装飾組成（江戸遺跡）

胎質 装飾	磁器						陶器	土器	小計
	青花	色絵	白磁	青磁	その他	小計			
数量	3833	952	161	314	87	5347	508	8	516

表 4　推定生産地組成（江戸遺跡）

生産地	景徳鎮	漳州	徳化	福建 広東	龍泉	宜興	中国他	朝鮮	東南 アジア	琉球	西 アジア	ヨー ロッパ	合計
数量	4094	733	181	72	231	9	86	56	52	80	1	287	5882

表 5　出土地（江戸遺跡）

	江戸城			大名			旗本御家人			町人			寺社			合計
	A	M	S	A	M	S	A	M	S	A	M	S	A	M	S	
数量	97	171	4	214	2289	395	28	435	390	4	118	105	10	185	36	4209
小計	272			2898			853			227			231			

表6　胎質・加飾法組成（北港遺跡）

		個体数	破片数	合計
磁器	青花	2590	17301	19891
	白磁	123	1835	1958
	青磁	6	150	156
	色絵	129	1025	1154
	褐釉	16	46	62
	瑠璃釉	2	17	19
	緑釉	0	11	11
	三彩	0	1	1
	小計	2866	20386	23252
陶器		48	4089	4137
土器		87	728	815
合計		3001	25203	28204

表7　器種組成（北港遺跡）

	器種	数量 ※	合計
1	碗	2174 14215	16389
2	皿	320 4192	4512
3	鉢	0 2	2
4	坏	216 1011	1227
5	合子	1 11	12
6	香炉	2 85	87
7	壺	1 20	21
8	水注	0 1	1
9	瓶	3 21	24
10	灯火具	3 4	7
11	筆立	0 2	2
12	蓮華	34 122	156
13	蓋物	2 10	12
14	その他	0 2	2
合計			22454

※上：個体数　下：破片数

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計0件

〔学会発表〕　計0件

〔図書〕　計4件

１．著者名 盧泰康、堀内秀樹他	４．発行年 2021年
２．出版社 雲林縣政府	５．総ページ数 651
３．書名 北港百年藝鎮歷史現場-古笨港遺址出土文物 整理研究、修護與專書出版計畫 期末報告	

１．著者名 渡辺芳郎、堀内秀樹他　166	４．発行年 2021年
２．出版社 渡辺芳郎	５．総ページ数 166
３．書名 近世国家境界域「四つの口」における物質流通の比較考古学的研究　成果報告書	

１．著者名 堀内秀樹（近世貿易陶磁器調査・研究グループ）	４．発行年 2021年
２．出版社 近世貿易陶磁器調査・研究グループ	５．総ページ数 205
３．書名 近世都市江戸の貿易陶磁器　資料集（2）	

１．著者名 堀内秀樹他	４．発行年 2021年
２．出版社 東京大学埋蔵文化財調査室	５．総ページ数 176
３．書名 18・19世紀の福建・広東諸窯の貿易陶磁器　資料報告集	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究協力者	盧　泰康 (LU Taikang)	國立臺南藝術大学	
研究協力者	小林　克 (KOBAYASHI Katsu)	練馬区立石神井公園ふるさと文化館	
研究協力者	長佐古　真也 (NAGASAKO Sinya)	東京都埋蔵文化財センター	
研究協力者	髙島　裕之 (TAKASHIMA Hiroyuki)	専修大学	
研究協力者	黄川田　修 (KIKAWADA Osamu)	國立臺湾大学	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
その他の国・地域	國立臺南藝術大学			